

令和2年度決算 涌谷町財政と病院経営 の状況について

令和3年11月11日
宮城県総務部市町村課



1 涌谷町の財政状況 (1) 財政力

	涌谷町	県内町村 順位	県内町村 平均	県内市町村 平均
①標準財政規模(千円)	4,863,124	14/21	4,998,238	17,787,683

- ・標準税収入額に普通交付税(臨時財政対策債発行可能額を含む)を加算した額。
- ・地方公共団体の標準的な状態で通常収入される経常的一般財源の規模を示すもの。
- ・涌谷町は、県内21町村の中では、平均よりやや小さい規模にあると言える。

②財政力指数	0.40	10/21	0.53	0.56
--------	------	-------	------	------

- ・地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3カ年の平均値。
- ・この値が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が増えることとなり、財源に余裕があると言える。
- ・涌谷町は、県内21町村の中での順位は中位であるが、値では県内平均を大きく下回っており、財政力は弱いと言える。



1 涌谷町の財政状況 (2) 財政構造

	涌谷町	県内町村 順位	県内町村 平均	県内市町村 平均
③経常収支比率(%)	89.0	16/21	91.4	93.5

- ・地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標。
- ・人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費(経常的経費)に充当された一般財源の割合で、この値が高いほど、柔軟な財政運営が困難となる。
- ・涌谷町は、県内市町村の中で低い方に位置しており、比較的良好な状態にある。

④実質公債費比率(%)	9.2	4/21	6.3	6.1
-------------	-----	------	-----	-----

- ・標準財政規模に対し、地方債の返済やそれに準ずる償還負担等の大きさを示す指標。資金繰りの程度を示す指標とも言え、この値が高いほど、資金繰りは苦しくなる。
- ・この値が25%(地方財政健全化法の早期健全化基準)に達した場合は、「財政健全化計画」を策定し、議会の議決や県、国への報告が必要となる。
- ・涌谷町の近年の推移を見ると、H30:12.1 → R1:10.5 → R2:9.2 と改善傾向にあるが、県内の他団体と比べると、依然として高水準となっている。



1 涌谷町の財政状況 (3) 将来負担

	涌谷町	県内町村 順位	県内町村 平均	県内市町村 平均
⑤地方債残高 ／標準財政規模(%)	132.7	15/21	152.0	160.7

- ・涌谷町のR2末の地方債残高は64.5億円(うち臨時財政対策債30.4億円)で、標準財政規模に占める割合は132.7%となっている。
- ・この水準は、県内の他団体と比べると低く、良好な方に位置している。

⑥将来負担比率(%)	40.1	6/21	23.7	23.7
------------	------	------	------	------

- ・標準財政規模に対し、地方公共団体の全会計のほか地方公社や出資法人等に係るものも含め、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債を示す指標。
- ・一般会計等の地方債や将来支払っていく可能性のある負担等、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標とも言える。
- ・この値が350%(地方財政健全化法の早期健全化基準)に達した場合は、「財政健全化計画」を策定し、議会の議決や県、国への報告が必要となる。
- ・県内21町村のうち9団体が0%となっている中、涌谷町は純粋な将来負担が約17.0億円存在するため、平均を上回る比率となっている。



1 涌谷町の財政状況 (4) 財政余力

	涌谷町	県内町村 順位	県内町村 平均	県内市町村 平均
⑦病院事業への繰出 ／標準財政規模(%)	8.2	5/15	6.5	6.2

- ・涌谷町が一般会計から病院事業会計に繰り出した金額は4.0億円で、標準財政規模に占める割合は8.2%となっている。
- ・この比率は、**病院事業を抱える県内15町村の中で、5番目に高い水準**となっている。

⑧財政調整基金残高 ／標準財政規模(%)	14.0	19/21	47.3	39.1
-------------------------	------	-------	------	------

- ・財政調整基金は、災害対応等の不測の事態に備えるとともに、年度間の不均衡を調整するために蓄えておくべき貯金で、一般的に標準財政規模に対して10～20%程度は必要とされている(市町村は20%程度必要とも言われている)。
- ・涌谷町のR2末の財政調整基金残高は6.8億円で、前年度末の6.3億円からわずかに増加したものの、標準財政規模に占める割合は14.0%で、**金額、比率ともに低い方から3番目**となっている。



2 涌谷町国保病院の経営状況 (1) 収益性

	涌谷町 国保病院	県内市町村 立病院順位	県内市町村 立病院平均	全国公立病院 平均(R1)※
①経常収支比率(%)	98.1	13/26	98.4	97.7

- ・企業の経常的な活動における収益性を表し、値が高いほど収益性が高いと言える。
- ・涌谷町国保病院は98.1%で、ほぼ平均的な水準となっているが、100%を下回っており、一般会計からの繰入金を入れてもなお費用が収益を上回っていることとなる。

②医業収支比率(%)	85.3	8/26	83.0	88.1
------------	------	------	------	------

- ・医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標で、医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示すもの。
- ・涌谷町国保病院は85.3%で、県内平均よりはやや高い比率となっているが、全国平均よりは低い水準にある。
- ・近年は上昇傾向にある(H30:78.2 → R1:82.8 → R2:85.3)が、90%を上回る水準を維持していたH25までと比べると、低い水準となっている。

※全国公立病院平均(R1)は、地方公営企業法を適用している全国の公立病院の令和元年度決算の平均値



2 涌谷町国保病院の経営状況 (2) 効率性

	涌谷町 国保病院	県内市町村 立病院順位	県内市町村 立病院平均	全国公立病院 平均(R1)
③病床利用率(%)	78.5	4/26	68.1	73.5

- ・病院の施設が有効に活用されているか判断する指標。
- ・涌谷町国保病院の病床利用率は78.5%で、県内平均及び全国平均を上回る水準となっている。
- ・近年の推移では、上昇傾向となっている(H30:65.8% → R1:75.8% → R2:78.5%)。

④患者1人1日当たり 入院収入(円)	24,162	18/26	48,420	47,948
-----------------------	--------	-------	--------	--------

- ・涌谷町国保病院の患者1人1日当たりの「入院収入」は24,162円で、県内平均及び全国平均を大きく下回る水準となっている。
- ・病床利用率が高い一方で、入院診療単価が低い状態にあると言える。
- ・ちなみに、患者1人1日当たり「外来収入」は16,045円となっており、平均をやや上回る水準となっている。



2 涌谷町国保病院の経営状況 (3) 依存性

	涌谷町 国保病院	県内市町村 立病院順位	県内市町村 立病院平均	全国公立病院 平均(R1)
⑤繰入金(収益勘定分) ／経常収益(%)	15.6	19/26	14.2	12.3

- ・経常収益のうち、一般会計等からの繰入金が占める割合を示す指標。
- ・この比率が高いほど、繰入金への依存度が高いと言える。
- ・涌谷町国保病院の収益勘定分の繰入額は3.1億円で、経常収益に占める場合が15.6%となっており、平均と比べると、やや高めの水準となっている。

⑥基準外繰入金 ／繰入金全体(%)	48.5	2/26	16.7	統計なし
----------------------	------	------	------	------

- ・一般会計等からの繰入金全体(収益勘定分+資本勘定分)のうち、基準外繰入がどの程度の割合を占めているかを示す指標。
- ・基本的に基準外繰入には地方交付税措置がないことから、この比率が高いほど、繰出を行う側(一般会計等)の負担が重くなっていることになる。
- ・涌谷町国保病院の基準外繰入金は1.9億円で、繰入金全体4.0億円の48.5%を占めており、平均よりも大幅に高い水準となっている。



2 涌谷町国保病院の経営状況 (4) 債務性

	涌谷町 国保病院	県内市町村 立病院順位	県内市町村 立病院平均	全国公立病院 平均(R1)
⑦不良債務(千円)	121,110	4/26	60,242	49,495

- ・流動負債(一時借入金を除く、未払金、前受金など)の額が、流動資産(現金預金、未収金、前払金など)の額を超えた部分を指す。資金不足を示す指標となる。
- ・涌谷町国保病院では、**1.2億円ほどの不良債務が発生**した。
- ・県内26病院の中で、不良債務が発生した病院は4病院(涌谷町国保病院はその1つ)。ほかには、みやぎ県南中核病院、登米市民病院、刈田総合病院で発生。

⑧企業債残高 ／経常収益(%)	35.5	13/17※	78.3	統計なし
--------------------	------	--------	------	------

- ・経常収益に対し、企業債残高の規模がどの程度あるかを示す指標。
- ・涌谷町国保病院の企業債残高は7.1億円で、経常収益に対し35.5%という比率となっており、**県内平均と比べ、小さい規模**となっている。
- ・なお、企業債残高のうち一部に対しては、将来の償還時に一般会計からの繰入が想定されるが(一般会計には一部地方交付税措置あり)、残りの一部に対しては、独自に財源の捻出が必要となる。

※順位は、病院単位ではなく事業単位の順位(市町村内に複数の病院がある場合は1カウント)



3 参考(繰出金と財政調整基金残高)

■ 涌谷町財政再建計画上の病院事業への繰出金の推移

(単位:千円)

	R1	R2	R3	R4	R5
繰出金 計画額	243,894	226,004	227,375	209,805	197,496
うち基準外繰出	0	0	0	-18,326	-31,201
繰出金 実績額	257,802	397,112	可能な限り基準外繰出を減らし、 一般会計の負担を抑制		
うち基準外繰出	13,908	192,792			

■ 涌谷町財政再建計画上の財政調整基金の残高推移

	R1末	R2末	R3末	R4末	R5末
計画額(億円)	6.1	6.6	7.0	7.9	8.8
対標準財政規模(%)	13.0	13.6	14.4	16.2	18.1
実績額(億円)	6.3	6.8	歳入確保・歳出削減に向けた 取組を継続することで、 基金残高を増やす		
対標準財政規模(%)	13.3	14.0			

